

科 目 名	教育相談				
配 当 学 年	3 年	必修・選択	必修	CAP制	対象外
授 業 の 種 類	講義	単 位 数	2 単 位	授業回数	15
授 業 担 当 者	西郷 達雄（非常勤講師）		単位認定責任者	西郷 達雄	
実務経験の有無	無				
実務経験のある教員名および授業の関連内容	-				
授業科目の概要	<p>授業は講義、実技練習、集団討議、発展的な調べ学習、発表等から成る。講義では、精神医学、来談者中心療法、認知行動療法等の基礎的な理論を概観する。実技練習では、カウンセリング応答技法、構成的エンカウンターグループ等の個別・集団向け技法をロールプレイング等により体験する。昨今の教育相談の諸課題について、スクールカウンセラーを初めとする関連職員と連携をし、「チーム学校」で働くための具体的方法論を生み出すことを目的として、集団討論、調べ学習、発表会等を行う。</p>				
授業科目の到達目標	<p>児童・生徒のメンタルヘルス、学校不応の問題に関する諸課題を深く理解し、その対策にあたることのできる人材の養成を目的として、教育行政、精神医学、臨床心理学、教育心理学等の主要理論を概観し、専門的知識や実技を習得する。またそれらの知見を応用した実践的対応の在り方を考える。具体的には以下の6点が含まれる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育相談に関連する諸理論を知る。</li> <li>2. 個別及び集団カウンセリング実技の実技を修得する。</li> <li>3. 児童・生徒の心の悩みに即した教育相談的対応を立案し、実行できる。</li> <li>4. 児童・生徒に関連の深い精神障害や発達障害の概要を知り、その対応方法を考えることができる。</li> <li>5. いじめや不登校、インターネットトラブル、自殺などの教育相談に関する諸課題を取り上げ、それらの対応方法を、精度の高い学術・行政等の情報を調査し、集団討議を行い、修正された最終到達知見を公表するという学習体験に基づいて考究する。</li> <li>6. 学習成果を振り返り、自己の課題に気づき、今後の自律的学習のあり方を計画する。</li> </ol>				
学修成果評価項目（%）および評価方法	項目	割合	評価方法		
	基礎学力	20 %	定期試験		
	専門知識	30 %	定期試験		
	倫理観	20 %	レポート		
	主体性	5 %	実技・演習		
	論理性	5 %	レポート		
	国際感覚	5 %	レポート		
	協調性	5 %	実技・演習		
	創造力	5 %	レポートおよび実技・演習		
責任感	5 %	レポートおよび実技・演習			
授業の展開					
1.	オリエンテーション～教育相談の在り方と国内外での位置づけ				
2.	教育相談に活かすカウンセリング理論と倫理的配慮				
3.	教育相談に活かすカウンセリング実技～積極的傾聴法				
4.	教育相談に活かす認知行動療法				
5.	教育相談に活かす認知行動療法の実技				
6.	学校適応からみた精神疾患				
7.	学校適応からみた発達障害の特徴				

8.	中間試験と学習状況の再確認				
9.	予防的視点を持った教育相談～コミュニケーション教育				
10.	予防的視点を持った教育相談～構成的エンカウンターグループ				
11.	ケーススタディ～不登校				
12.	ケーススタディ～インターネットいじめ				
13.	ケーススタディ～子どもの自殺				
14.	ケーススタディ～児童虐待				
15.	教育相談活動の今後の課題				
授 業 外 学 修 に つ い て	<p>【レポート課題】 15回の授業終了後、レポートの提出を求める。</p> <p>【授業外学修】 1. 授業前：事前に教科書や資料を通読し、授業の展開する筋道を予想すること。同時に、疑問点をメモしながら、実際に質問するとしたらどんな発言をすればよいか、考えておくこと。 2. 授業後：プリントやノートを見ながら、授業の内容を思い出し、筋道立ててノートに（またはパソコンで）まとめること。</p>				
教 科 書	教育相談（Next 教科書シリーズ） 津川律子編集 弘文社				
参 考 文 献	<p>生徒指導提要 文部科学省          教育相談の理論と実践 河村 茂雄 図書文化社          体験型ワークで学ぶ教育相談 小野田 正利 大阪大学出版          ロールプレイで学ぶ教育相談ワークブック：子どもの育ちを支える 向後 礼子 ミネルヴァ書房</p>				
試 験 等 の 実 施	定期試験	その他の テスト	課題・ レポート	発表・プレゼンテ ーション	取組状況等
	○	×	○	×	○
成 績 評 価 の 割 合	60 %	0 %	30 %	0 %	10 %
成 績 評 価 の 基 準	<p>本学の評価基準に基づき、成績評価を行う。</p> <p>秀（100～90点）、優（89～80点）、良（79～70点）、可（69点～60点）、不可（59点～0点）</p>				
試 験 等 の 実 施、成 績 評 価 の 基 準 に 関 す る 補 足 事 項					

（教育相談）